



滄水会賞メダル

滄水会ニュース

職業能力開発総合大学校同窓会誌
第17号 平成16年1月1日発行

特集1

起業家・企業家・ものづくりに学ぶ その4

特集2

母校の学科変遷と今、そして、これから

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

「一日の計は朝(あした)にあり、一年の計は元旦にあり」とは言い古された格言ではありますが、正月といえばこの言葉が新鮮味をもって浮かんできます。新年の気分いちばんぴったり合うからではないでしょうか。そして、何度も迎える正月ですが、その都度、新たな決意で臨む姿勢を大切にしたいものです。

企画趣旨

特集1 平成12年から続く企画です。経済を中心として社会システムが大きく変化する中で、企業はその変化に速やかに対応して来ています。また、このような変化を見据え起業する人もいます。一方、会員共通の関心事でもあります“ものづくり”の環境も日々変化しております。そこで、企業でご活躍のOB、起業されたOB、ものづくり環境の変化の中でご活躍の方々に、変化の捉え方、対応策あるいはベンチャースピリット等のノウハウの一端を寄稿して頂き、会員の今後の活躍の羅針盤になればと企画します。

特集2 新たな企画です。母校は昭和36年中央職業訓練所として創立され、平成16年が44年目になります。この間、名称も3回変わり現在は職業能力開発総合大学校です。そして、今、雇用・能力開発機構の独立行政法人化(平成16年3月)の流れの中で、職業能力開発に関する調査・研究、職業訓練指導員養成という根幹も見直しを迫られています。このような状況の中で、母校の学科変遷を辿り、現状をご報告するとともに、滄水会として母校の今後に滄水会ニュースを通して支援して行こうということで企画します。



起業家に学ぶ

企業再生を考える

日本電産株式会社 代表取締役社長
永守 重信 氏 (会員)



企業家に学ぶ

子会社の開発部門が生きる残る方策

東北アンリツ株式会社 第1技術部 部長
柳川 博一 氏 (会員)



ものづくりに学ぶ

世界の工場での物作りに思う

株式会社日立ハイテクノロジーズ
菊地 利一郎 氏



母校の学科変遷と今、
そして、これから

職業能力開発総合大学校 生産機械工学科 助教授
磯野 宏秋 氏 (滄水会理事)

起業家に学ぶ

企業再生を考える

日本電産株式会社
代表取締役社長 永守 重信



(第3期電気科卒)

ここ10年余の厳しい経済状況を反映して、企業業績は確実に二極化を呈してきている。すなわち、業界間格差はもちろんのこと、同一業界、同一地域であっても勝ち組企業と負け組企業の格差がどんどん拡大し、その差たるや過去に考えられないほどになってしまっている。これによってひと握りの勝ち組企業が利益のほとんどを手にして、多くの負け組企業を凌駕してしまってきているのである。このような格差がつくことにはそれなりの理由があり、勝ち組企業は負け組に比べて信じがたい努力を永年続けてきた結果として今日を迎えているのであろう。高度経済成長の波に乗って普通の努力を続けていればまあまあの経営結果を出せた時代は終わり、今や厳しい世界競争の中で真剣な努力をしても生き残りが難しい。その上、我々を取り巻く経済環境は日増しに悪化してきているのである。

よって、この2～3年間は急速に経営悪化企業が増え、赤字決算を何期も続けてその存続すらあやぶまれる現象が目につく。こうした状況を見た政府も、官主導の企業再生機構なるものを設立し対応しようとしているが、果して企業再生の仕事はそう簡単なものであろうか。ある特定の民間企業は、永年自由競争社会と言われながらも、系列取引や特別指名取引等によって必ずしも自由競争をせず、保護された状況の下でぬるま湯の企業経営を続けてきたところが多い。高度経済成長時代ならともかくも、マーケットが縮小していく経済環境下では、本来自然淘汰を受けるべき弱い企業までもが残ったことにより、完全な供給過剰体制に陥ってしまったわけである。

本来、民間企業は完全な自由競争の下で経営力や技術力、あるいは製造力やサービス力によって勝敗を決して生き残るべきである。それを官の



三協精機製作所

力によって無理に生かそうとするならば、あらたな問題を提起することになる。ただ、日本企業には、プロの経営者の不足によって本来残さなければならぬ企業までもが経営不振に陥ってしまう例があまりにも多すぎる。その製品や技術を残さないと将来の日本全体の競争力を失ってしまうものや、その地域社会の経済を崩壊させるような企業は、何としてでも再生しなければならない時もあると考えられる。

私はこの10年余で22社の経営不振企業を再建再生してきた。また、最近では東証一部上場の長野県下の名門企業である三協精機製作所という会社の再建にも着手したところである。こうした会社は日本にとって絶対生き残るべき企業だと信じて再生してきた。

例えば、デジタルカメラ用シャッターで今や世界の70%以上のシェア(市場占有率)を持つ日本電産コパルという東証一部上場企業がある。この会社は永年業績が悪化し、経営不振に陥っていた。その再建を私が6年前に引き受けた時も、この会社は日本にとって絶対残すべき価値のある



日本電産コパル デジタルカメラ用シャッター

企業だと信じて再生に総力を挙げた。おかげで今や日本の優良企業ランキングの上位に位置する企業に生まれ変わったが、もしこの会社が潰れていたら、今やなくてはならない、日本が誇る世界製品となっているデジタルカメラ業界において、日本は圧倒的な強さを持てたであろうか！。おそらく、今から考えればどんなことをしても再生して残すべき企業であったはずである。

私はやみくもに企業再生をすべきではないと考

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌) えている一人である。供給過剰で競争激化させる、どこにでもある会社を再生して残すことは、決してプラスばかりではない。世の中から存在価値を認められない企業で、かつ業績が悪化したものはどんどん自然淘汰の中で潰すべきだと思う。そこへ官が乗り込んできて、我々の税金を使って何でもかんでも助けて残すことは、自由競争社会の秩序をも壊す危険性がある。ただ、日本の製造業がどんどん衰退する中で絶対残さなければならない企業もたくさんある。こうした会社の再生再建には、官民挙げて努力すべきであると思っている。

今回再建を引き受けた三協精機製作所も、中長期の視点からは絶対残すべき高い技術を持った企業だと思うからこそ、総力を挙げて再建に取り組もうと思っている。日本の製造業全体を再生するためにも、キーとなる技術や製品をもっともっと強くして、台頭する中国やその他の海外企業に対抗することの重要性をもっと国全体で認識すべきであろう。



飛躍の年！

代表取締役社長 小路 幸市郎 (電気科 第17回)

福山 聖士 (電子科 第17回)

衛 建平 (電気科 第21回)

野崎 隆 (運輸装置科 第26回 / 研究機械 第2回)

三浦 秀朗 (情報工学科 第31回)

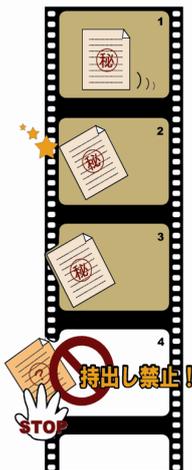


デバイスドライバ開発&内部セキュリティのプロフェッショナル
サイエンスパーク株式会社

〒228-0024 神奈川県座間市入谷1-1538-11

TEL 046-255-2544 / FAX 046-255-0319

<http://www.sciencepark.co.jp/>



4thEyeからデスクトップセキュリティは変わる...

内部犯行監視・管理システム
4thEye(フォース・アイ)

VOICE 滄水会のますますの発展を祈念します



トック・エンジニアリング株式会社

金属探知器 (アルミ包装内検知)

世紀をリードする

マグネット装置 リサイクル機器

代表取締役社長 隅井 努 第3期鍛造科卒

〒190-1222 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎東松原 26 番地

TEL 042-556-1989 FAX 042-568-0560

<http://www.aa.alles.or.jp/~toktok/> E-メール toktok@aa.alles.or.jp

企業家に学ぶ

子会社の開発部門が生き残る方策

東北アンリツ株式会社

第1技術部 部長 柳川 博一



(第17期電子科卒)

大学校を卒業後、通信機器用計測器メーカーであるアンリツ(株)へ入社し、約20年間、研究開発部門において移動体通信機器用の計測器を開発して参りました。特に、高周波の回路技術開発を中心に、スペクトラムアナライザや信号発生器等、汎用性の高い高周波計測器の製品開発に従事してきました。平成13年にアンリツグループの製造担当子会社である東北アンリツ(株)の技術部門長を命じられ、現在、本技術部においてアンリツグループの製品開発の一部門として、デジタル移動体通信機器用計測器の開発に従事しています。

本技術部はアンリツ本体の製品開発業務の一部分を補完する役割を担っておりますが、子会社へ赴任してまもなく、世界的な通信業界の不況が訪れ、本体からの業務補完依頼が激減し、自部門の存続が危うい経営状態に陥りました。我々の部門が存続し続け、しかもより良くなるためにはどうしたらよいか。私が実施した方策を以下に述べさせていただきます。

1. 「違い」と「存在価値」をはっきりさせる

このような状況において、先ず取り組んだのは、「他の開発部門との違い」および「我々の存在価値」をはっきりさせることでした。我々がグループ内の他の開発部門と異なる技術的な独自性を有して、それによって価値を生み出すことができれば、存続は可能であり、しかもグループの発展に更なる寄与ができると考えたからです。本技術部は約15年間、アンリツ本体の製品開発の補完業務をしてきてお

り、様々な要素技術を保有しています。その中で、特に”強み”が発揮できそうな下記の要素技術を本技術部の”4大コア技術”として抽出し、その技術力の向上につながるよう仕事をアレンジしていきました。

(選択した4大コア技術)

- ①高周波 & マイクロ波 周波数シンセサイザ回路技術
- ②小型高周波回路実装技術
- ③デジタル変調解析を中心としたデジタル信号処理技術(DSP技術)
- ④高速デジタル回路技術

また、「我々の存在価値」に関しては、このコア技術を土台にしてアンリツグループ内での価値と東北アンリツにおける価値に分けて考え、その両方を満足させることに知恵を絞りました。その結果、コア技術により下記の価値をめざすことにしました。

- ・グループ内での価値： アンリツ本体の製品開発に我々のコア技術力が必須であること
- ・自社内での価値： 子会社の自立経営に寄与するコア技術総合力による独自製品の開発

2. 「違い」の部分で No.1 になる



前記の目標と計画の下、選択したコア技術の技術力向上につながる仕事を確保し、力を蓄えていかなければなりません。コア技術に関連した仕事をグループ内からだけに頼るのは無理な話であり外部に求めました。コア技術に関連する開発業務にこだわり、グループ内の営業部門の協力により仕事を確保してきました。他に大きな利益をもたらす仕事の話があっても、今は苦しいが「明日の糧」のためにはがまんし、コア技術力の向上をもたらすものに限定し、グループ内で No.1 の技術力へ育成することをめざしてきました。

これまでの約3年間の実施により、グループ内での我々のコア技術に対する見方が大きく変化してきています。現在、単なる補完業務から、お互いの強みを生かした共同開発の状態に移行してきています。今後、更なる技術力の向上策により、グループ内での存在価値を更に向上させ、しかもグループの製品開発総合力の向上に寄与できるものと考えております。

3. 独自の事業展開をめざす

さらに、我々にはもう一つ価値を出さなければならない領域があります。子会社とはいえ、独立した法人企業である以上、自立した経営が求められ、それに寄与する価値の創出です。

Voice 滄水会、能開総合大の益々の発展を祈ります

富崎・円城寺特許事務所

所長 富崎元成 弁理士 第7期機械科卒

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目13番4号

T・Sビル2階

TEL 03-3504-1305(代) FAX 03-3504-1306

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)

そのために、蓄積してきた4大コア技術を結集して、我々だけで独自の計測器をつくり上げました。4大コア技術の総合力が生かせる製品として、アンリツが従来より事業展開している電界強度測定器を選択し、昨今話題になっている第3世代デジタル移動体通信(W-CDMA 携帯)向けに開発いたしました。「ML8720B エリアテスタ」の商品名でアンリツ本体へ OEM 供給しております。本機は、W-CDMA 携帯のサービスエリアの通信品質を評価する計測器であり、4大コア技術の蓄積とその総合力より実現できたものです。

4. 最後に

対象業界の激変により自部門が危機に立たされた結果、我々はそれを前向きに、自部門が変化する機会であると捉えたことで知恵が捻出でき、成果へ結びつけることができたと考えています。今後も我々子会社に不利な立場は何度も訪れるでしょう、しかしその時こそ我々が成長する機会であると常に考えていきたいと思っております。



炭を科学するFUJIKO

不二高株式会社

高機能液状木炭がウエルネスを身近にする

URL <http://www.fujiko-bbc.co.jp>

代表取締役 **高島規嘉** 木材加工科第5期卒

〒410-0871 静岡県沼津市西間門15-1

営業事業部 TEL 055-924-2000 FAX 055-924-2062

Eメール info@fujiko-bbc.co.jp

ものづくりに 学ぶ

世界の工場での物作りに思う

株式会社 日立ハイテクノロジーズ
菊地 利一郎



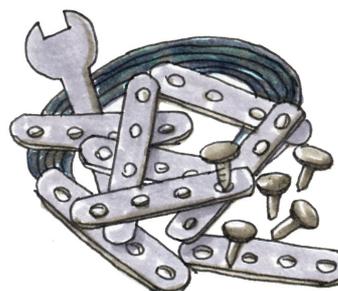
上海から西方へ90Km、人口200万の都市蘇州は東洋のベニスとも呼ばれ、観光が主な産業の柱であったが、改革開放政策の下、近代工業都市に生まれ変わり、その変貌の様は加速度を増して続いている。私がこの国に足を踏み入れたのは今から3年前の初冬の頃、アルミ鋳物の機械加工を初めて中国企業に依頼する事が決まり、その作業指導を担当する事がきっかけでした。一口に鋳物加工といっても、当社の部品は精密加工に近い設計仕様になっており、取付治具(雇)の精度管理や部品の無歪み取付けが指導の主なポイントでした。

一般的に日本の企業が現場技能者に要求する品質は歩留まり100%の物づくりですが、一方、それを受け入れる側は、不良ゼロを目標に掲げ、技能者の集団が、決してその期待を裏切る事無く要求以上の品質を提供し続けてきました。一口に提供し続けるといってもその努力は並み大抵のものではなく、過去に熟練工が経験した多くの失敗と、その中で学び得た貴重な「勘どころ」を自分一人の体験として封印する事無く、職場全体に啓蒙し、伝承し続けてきた事が今日に至っているものと確信しています。今まさに世界の工場と呼ばれる中国の工場でも企業の規模を問わず、高い品質目標を掲げ勢いを増した生産活動が展開され続けています。

私が指導に訪れた蘇州市の工場は、蘇州工業園区内の外資系中堅企業が約1割で、大半の工場は日本風に言えば中小企業以下(市内に点在する旧国営の個人企業)の小さい会社ばかりです。自社部品の機械加工に関する指導を始めて3年、乏しい経験ですが、指導の度にぶつかる壁は、中国では一

般的な事だと言われている強烈な個人競争の文化であります。従業員一人一人が雇用契約を結ぶ企業に対しても、技能技術の習得に関しての考え方も、日本の物差しでは測れない独特の(職位が同列の場合、教わった事を同列の他の人に絶対教えない)ものを感じられます。そういうものだと聞かされていましたが、頭では解っていても気持ちは日本流になって欲しいとの思いを抱きながら日本と中国を行き来し、その都度同じ事を繰返し・繰返し指導しています。

蘇州から見て 遙か東方、海の先に位置する日本の製造現場は、戦後の高度成長を期に、現在の繁栄にいたるまで、QCサークル活動を柱に技能・技術面でも研鑽を積み、前述した高い品質目標に対し、確実にそれを具現化してきた訳ですが、それらを可能にした中心的存在が終身雇用制度という日本独自の文化や制度であったのかも知れません。一方、世界の工場と呼ばれる中国は、政治も文化も制度も異なる国であり、その一角で私は、日本流の物作りを定着させる事が出来るか否か？私なりのやり方で作業指導を続けています。訪問先の鋳物メーカーで会食中「今の中国は、ハード/ソフト全てにおいて米・日に追いついた。しかし足りないものが2つある。

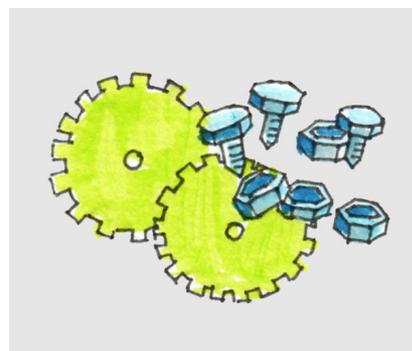


それは米国の創造力と日本人の勤勉さだ！」と総経理(社長)が話されていました。反面これは中国人の目標となるものであり近い将来、真に世界の工場と成り得る事を示唆している様に思え、いささかの脅威を感じました。

しかしながら、現実には大変厳しいものがあり、特に我社の機械加工部品は、種類は多いがロットは少ないのが特徴であり、生産設備と技術力に依存する物作りでなく、人の持つ技能、技術が品質を左右する特異な部品群が多く、行く先々で部品特有の加工ノウハウの指導書化、治工具の設計製造が必要となります。部品によっては2週間も同じ加工要素の指導が必要な物もあり、実際に削って見せた後、通訳を介して加工手順の説明、やらせて見て不具合の修正と、繰返し・繰返し同じ物を加工する事で、目標とする品質に達する訳ですが、この段階で指導が終わらないのが特徴で、帰国して半年も経たないうちに立ち上げたはずの部品が全て不良品の山となってしまいます。原因を探るべく現地に飛んだ私は我が目を疑いました。自分なりに苦勞して指導した技能者の姿は一人も無く、経験のない新人が悪戦苦闘しながら、不良品の山を築いているではありませんか、「この前指導した彼はどうした？」と聞くと、2ヶ月前に辞めて別の会社に就職したとの事、この国では当たり前の話だとの説明に、又もや文化の違いを感じる次第です。更に付け加えれば、指導書に表す事が難しい「勘どころ」は、何一つ伝承されずゼロからやり直しの状態、鋳物メーカーの総経理の話に若干の脅威を感じたのもつかの間、技能者・熟練者の職場定着など早々簡単にはいかないのが現実であり、改めてこの国での物作りの難しさを実感させられた次第です。

私は幸運にも過去に技能五輪フライス盤職種で2年間訓練し、全国大会にも一度だけ出場するチャンスを頂きました。金メダルが目標の訓練で学んだ事は、単に物を加工する(削

る)のではなく、人より速く・美しく・精度良くを基本に、削るのは刃物でも機械でもない！削る人の魂・心が形を変えて削っているのだ！部品のキズは心の錆だ！と、教えられた事を覚えています。日本の物作りが強いのは、まさにこの点にあると思っています。テクニクは勿論のこと人間性・人格を育てる教育文化が定着しており、その事は将来的にも不変の文化と確信しております。そのような私ですが、異国の地で様々な部品加工のノウハウを指導するとき、未だ魂・心の領域には踏み込んでおりません。その理由は何か？・・・五輪課題に例えれば及第点ではあるが100点満点ではない！と、私自身が感じているからです。点数で表す事はあえて避けますが、プロセスやテクニクの習得に時間がかかると感じています。日本の物作りが空洞化の一途をたどるか否か？日本でしか出来ない物作りは無いのか？・・・など、日本の物作りの将来に思いをめぐらせる時、私なりに思うのは**頂上の品質**であり、『高付加価値な製品・多品種少量製品』など、限られた製品分野に集中するのではないかと考えています。現実には世界の工場で生産される製品、部品は日毎にその数を増していますが、今までとは少し変わった物作りの流れは否定せず、世界の工場に負けない日本の物作りは必ず存在すると確信しつつ、今日もまた異国の地で小さな工場に出向き、工程士との打合せを続けています。

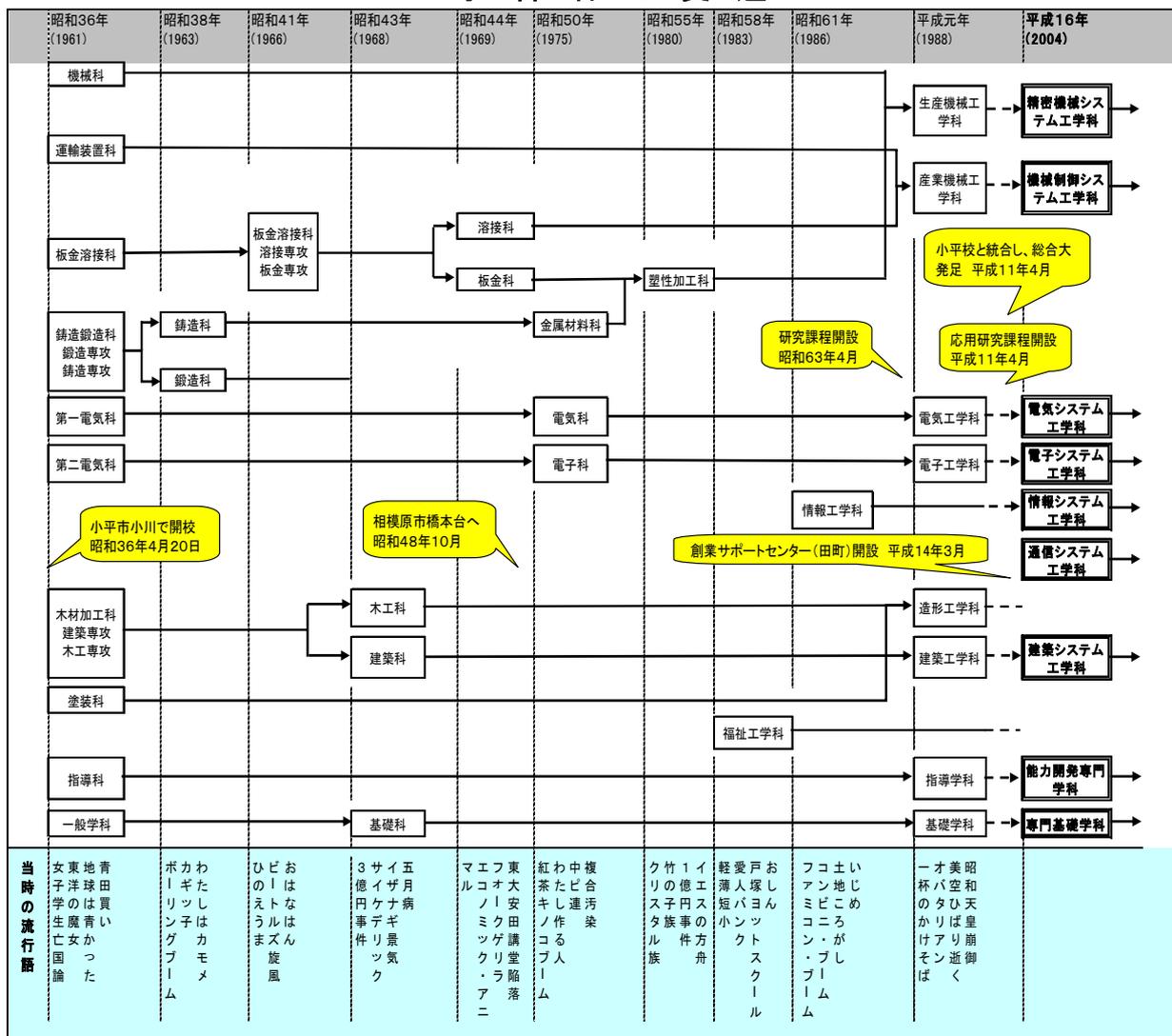


総合大の変遷

母校の学科変遷と今、そして、これから

職業能力開発総合大学校
生産機械工学科 助教授 磯野 宏秋 (滄水会 理事)

学 科 名 の 変 遷



(注) 大学校 30 年誌、40 年誌などから編纂

かつて『巨大な遊園地だ』とか、『社員教育は入社後行うから、学生は遊ばせておけばよい』などと揶揄された日本の大学も、世界的な経済競争の中で余裕を失った経営者から、即戦力になる学生を求められています。

各大学も少子化対策に加えてTLO、インキュベーション、技術者認証の取得など、生き残り策を必死で模索しています。“職業訓練指導員の養成”を目的とする我が母校も例外

ではありません。

上表の平成元年(1988)以降を見ても、研究課程(修士課程)と応用研究課程の開設は一般大学と同等であることを証明し、さらに創業サポートセンターの開設は、社会に開かれた大学であることを証明するものです。

これまで 40 年以上にわたって母校が我が国で唯一の職業訓練指導員の養成機関としてやって来れたのも、“職業訓練”が社会から

一定の評価を得ていたからと言えます。職業訓練の修了生がスキルアップし、仕事を見つけ、給料を稼ぎ、家族を養い、社会に貢献してきたからです。

しかし右肩上がりの高度成長を支えた終身雇用制、年功序列型賃金、企業内組合といった社会構造が崩壊するにつれ、労働者の意識も多様化してきました。加えて、リストラ対策、フリーター対策など、従来の集団的な職業訓練では対処しきれない問題が次々と生まれてきました。

こうした大きな社会的変化に対して、果たして在校生や大学関係者が真の意味できっちり追随していているのかを心配している滄水会会員諸氏もおられるのではないのでしょうか。

平成16年度から発足する新しい学科体制(前頁の表参照)では“指導者”、すなわち「個人に合った能力開発を行い、その能力を正當に評価し、就職に導く」能力をもった指導員の養成を目指しています。指導者には、幅広い社会経験とコンサルティング能力が要求されます。

母体である雇用・能力開発機構が独立行政法人化される中、能開総合大の真価が問われています。どこにでもある教育研究を行う大学では、完全にその存在価値を失うこととなります。

果たしてこの道でやっていけるのか?他に道はないのか?こうした疑問について、次号から「**母校の学科変遷と今、そして、これから**」と題して特集を組みます。日頃抱いている母校へのご意見・ご提言を、滄水会事務局までお寄せ下さい。

●住所変更等のお願い

会員の皆様の住所変更等がございましたら滄水会事務局までご連絡をお願いいたします。

●滄水会維持寄付のお願い

滄水会会則にあります入会20年毎に募集する維持寄付をお願いします。今年度は19回卒業生の皆様をお願いします。金額1口5000円(何口でも結構です)同封の振り替え用紙をご利用ください。

郵便口座番号 00250-2-56972

滄水会(本部)からのお知らせ

滄水会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。滄水会は平成14年度第39期卒業生238名を迎え、会員総数が6100名余りとなりました。大学によっては1回の卒業生数がこれ以上の大学も珍しくありませんが、創立以来42年でやっと6100名という卒業生の活躍分野が比較的限られている目的大学である母校・職業能力開発総合大学校も、その役割や存在価値を改めて明確にすることが求められております。こうした変化の中、特集の中でも触れましたが、学科再編が行われ、また出身学科がなくなった会員が増えました。また、母校のサテライトオフィスとして、新たに関西創業サポートセンターが大阪に開設され、東京田町の創業サポートセンターと同様の業務を開始しました。

●滄水会新役員の紹介

平成14年10月19日の総会におきまして、滄水会役員改選が行われました。今後3年間、次の役員により滄水会本部の運営をさせていただきます。皆様の暖かいご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

会 長 永守重信(一電3期)

日本電産(株) 代表取締役社長

副会長

・稲垣雅穂(一電5期)

(株)きんでん 設備エンジニアリング本部副部長・技術統括部長

・服部信治(建築10期)

(株)アーバネットコーポレーション 代表取締役社長

・鈴木重信(機械10期)

職業能力開発総合大学校 福祉工学科助教授

理事

- ・木村陽一(一電9期)
雇用・能力開発機構 産業情報ネットワーク企画室指導役
- ・磯野宏秋(機械 11期)
職業能力開発総合大学校生 産機械工学科助教授
- ・菅野恒雄(二電 11期)
職業能力開発総合大学校 情報工学科助教授
- ・宮園儀久(機械 16期)
中央職業能力開発協会能力 開発事業部情報課
- ・山下陽一郎(運輸 16期)
職業能力開発総合大学校 基礎学科講師
- ・池田知純(福祉 31期)
職業能力開発総合大学校 福祉工学科助手
- ・渋谷泉*(建築 33期)
職業能力開発総合大学校 建築工学科助手

会計監査

- ・片岡義博(casting 9期)
職業能力開発総合大学校 生産機械工学科助教授
- ・前川秀幸(建築 15期)
職業能力開発総合大学校 建築工学科講師

*)総会では泉 又兵衛さん〔(情報 31期)職業能力開発総合大学校情報工学科〕が選出されましたが、平成15年4月人事異動により滄水会本部事務局業務ができなくなりましたので、後任理事として渋谷泉さんを理事会に推薦し了承されました。

●平成14年度(第8回)滄水会賞受賞者

平成15年3月20日、平成14年度卒業式が挙行されました。今回から会場が大学内から橋本駅隣接の「杜のホールはしもと」に変わりました。また、これまで卒業式終了直後に行われていた「滄水会賞授与」が卒業式の中で行われることとなり、厚生労働大臣挨拶の後、永守会長の祝辞に引き続き挙行されました。写真は記念メダルをはめ込んだ賞状を手にした受賞者の皆さんです。なお、会場変更に伴い卒業祝賀パーティもなくなり、恒例の滄水会寄贈の鏡割りもなくなりました。

滄水会賞受賞者氏名

産業機械工学科	福原 圭吾
生産機械工学科	原 啓一郎
電気工学科	芝野 祐介
電子工学科	岡田 秀一
情報工学科	金子 裕美
建築工学科	田中 郁恵
造形工学科	上塚 雅代
福祉工学科	菅原 基棋



卒業式風景



永守会長祝辞



滄水会受賞者

世界を支える駆動技術

2003年、日本電産は創業30周年を迎えました。「情熱・熱意・執念」「知的ハードワーキング」「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」、この「三大精神」をもって発展を遂げてきた30年。この先、2010年連結売上高1兆円、グループ社員10万人の達成を目標に、「総合駆動技術の世界NO.1メーカー」へ。日本電産のあくなき戦いは続き



Nidec

日本電産株式会社

代表取締役社長 永守 重信 (第3期電気科卒業)
〒601-8205 京都市南区久世殿城町338 <http://www.nidec.co.jp>

編集後記

総会で役員改選が行われ、滄水会ニュース編集委員も全員変わりました。6月中旬には理事会を開催し編集方針を検討し、これまでの編集方針を踏襲しつつも、母校の現状や企業以外における会員の活躍も広くアピールしていこうということになりました。そして、まず、独立行政法人化に伴う母校の学科再編にスポットを当て「母校の学科変遷と今、そして、これから」と題して特集を組むことになりました。編集作業は、学科再編後の学科名が決定した10月から始まりましたが、不慣れと手際の悪さが重なり、あっという間に2ヶ月が経過し年始の発行となってしまいました。会員の皆様、寄稿して頂いた執筆者の方々、広告掲載を快諾して頂いた皆さんには多大なご迷惑をお掛け致しましたことを編集後記の場をお借りしてお詫びいたします。しかし、編集委員のやる気は満々です。今後ともよろしくお願ひ致します。

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)編集委員：鈴木 重信・磯野 宏秋・菅野 恒雄 イラスト：赤松 茜

発行日：平成16年1月1日 発行者：滄水会会長 永守 重信

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1

職業能力開発総合大学校内 滄水会事務局

FAX 042-763-9267 E-mail: sousui@uitec.ac.jp

滄水会



雇用・能力開発機構
Employment and Human Resource Development Organization of Japan

職業能力開発総合大学校

関西創業サポートセンター

創業したい！
新分野に進出したい！
あなたのやる気を、
あらゆる面から
サポートします。



グリーンと身近に、
あなたのサポート隊。

http://e-support.ehdo.go.jp/

1
ご相談

起業・新分野展開に必要な全般的な相談や
公的支援等の紹介から、人材の育成
および技術開発に関するご相談にお応えします。

2
情報提供

起業・新分野展開に関する
支援情報はもちろん、
役立つ最新情報もパソコン・
ビデオ・書籍などで自由に
ご覧いただけます。

関西
創業サポート
センター
概要

3
公開講座・
交流会

起業・新分野展開に
関連するテーマの
「公開講座」や「交流会」などを
開催し、起業意識の
啓発や向上、起業の「種」の
発見などをお手伝いします。

5
技術的
課題解決

起業に不可欠とされる
能力の養成を実践的な
セミナー形式にてサポートします。
(平成16年4月開始)

4
起業家養成

起業・新分野展開に向け技術面での課題を
抱えている方々に、技術的な課題の
解決をバックアップします。

ご利用時間

平日9:45～19:00
(ただし、木曜日は20:30まで)
土・日曜日、祝祭日はお休みです。

相談受付時間: 平日9:45～18:00
(ただし、木曜日は19:30まで)

関西創業サポートセンター

[関西起業・新分野展開支援センター]

〒541-0054 大阪市中央区南本町1-7-15
明治生命堺筋本町ビル9階

Tel:06-6125-4690 Fax:06-6267-4827

e-mail:kansai.e-support1@nifty.com
http://e-support.ehdo.go.jp/

創業、新たな事業をお考えの方であれば、
どなたでもご利用いただけます。

お気軽にお立ち寄りください。

※ご相談は随時受け付けており「無料」です。



〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1
http://www.uitec.ehdo.go.jp/gadi/top.html

●地下鉄 中央線・堺筋線 堺筋本町駅下車
④番出口右よこ 明治生命堺筋本町ビル9階

当センターは厚生労働省の施策として雇用・能力開発機構が運営する公的機関です。

http://e-support.ehdo.go.jp/